入院診療計画書

やわたメディカルセンター

アブレーション

入院日：　　年　　月　　日　　病棟：　　号室

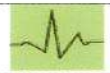
西暦　　年　　月　　日

病名・症状：　　パス名：　　担当医：　　印　看護師：

担当看護師：　　担当薬剤師：　　担当栄養士：

西暦　　年　　月　　日

総合的機能評価：　　患者様・ご家族様サイン

期　間	No	未定	未定	未定	未定	未定
経　過		入院日	検査日（検査前）	治療日（治療後）	治療翌日	退院日
看護計画	P	#1　非効果的行動計画リスク状態	#1　非効果的行動計画リスク状態	#2　心臓組織循環減少リスク状態 #3　静脈血栓塞栓リスク状態 #4　身体損傷リスク状態 #5　ヨード造影剤有害作用リスク状態 #6　出血リスク状態 #7　急性疼痛 #8　非効果的末梢組織循環	#2　心臓組織循環減少リスク状態 #3　静脈血栓塞栓リスク状態 #4　身体損傷リスク状態 #6　出血リスク状態 #7　急性疼痛 #8　非効果的末梢組織循環 #9　ヘルスリテラシー促進準備状態	#9　ヘルスリテラシー促進準備状態
アウトカム	P	・オリエンテーションが理解でき、不安なく検査が受けられる ※気がかりなことがありましたら遠慮なくお尋ねください	オリエンテーションが理解でき、不安なく検査が受けられる ※気がかりなことがありましたら遠慮なくお尋ねください	・出血や痛み、気分不快などがあれば ナースコールすることができる ・水分摂取の必要性がわかる ・安静度が守ることができる	・出血や痛み、気分不快などがあれば ナースコールすることができる ・安静度が守ることができる ・自己検脈ができる	・入院予定期間で退院できる ・自己検脈ができる
活動・安静度	P	・病院内自由です （症状によって制限されることもあります） 	・病院内自由です （症状によって制限されることもあります） 	【大腿部の安静】 ・治療後から翌朝までベッド上で安静に過ごしていただきます ・帰室直後から6時間経つまでは、仰向けのままで足を動かすことができません 寝返りは看護師が手伝いますので、自分でしないようにしてください ・6時間後から問題なければ、 自分で寝返りをすることができます （軽く膝を曲げることもできます） ベッドも45°程度まで起こしてもかまいません ・安静が保てない場合は下肢の動かないように固定させていただくこともあります （別途、抑制同意書にて承諾をいただきます） ※使用したシースにより、安静は4時間となることもあります その場合、安静終了後はトイレまで歩行可となります	【大腿部の固定の解除】 ・朝の診察時に、医師が圧迫止血を外します ☆止血帯が外れるまで、 座ったり、歩いたりできません ・安静終了後に病院内自由です （症状によって制限されることもあります） 	・病院内自由です （症状によって制限されることもあります）
治療・処置	P	・入院時より心電図モニターを装着します ・主治医より治療前の病状説明を行います ※抗凝固剤を内服している場合は中止し ヘパリンの点滴を開始します （※ヘパリン点滴は行わない場合もあります） ※入院後に造影CT、経食道エコーを行う場合は 絶飲食になります 13時頃造影CT→経食道エコー（時間未定）	【検査予定約1時間前より準備開始します】 ・指輪、時計、義歯、眼鏡（コンタクトレンズ）は外してください ・化粧、マニキュアを落としてください ・検査用パンツを着用してください ・治療を行う部位の毛剃りを行います ・手術衣に着替えます ・下肢に包帯を巻きます ・足背動脈にマーキングを行います ・右上肢に点滴を行います ・心房細動の方は安全のため、治療中に四肢が動かないように固定させていただくことがあります （別途、抑制同意書にて承諾をいただきます）	・血圧など症状の観察は 帰室から3時間後までは必ずチェックします ・治療した部位からの出血の有無を確認します ☆その後も適宜、観察していきますが、 『胸が痛い』『胸がつらい』『息がしにくい』『気持ち悪い』などの 症状がありましたらすぐにお知らせください ・主治医よりご家族に治療後の病状説明あります	・主治医よりご本人へ治療後の説明があります 【抗凝固剤の内服をしている場合】 ・検査翌日から内服を再開します ・ヘパリン持続点滴は 抗凝固剤の内服をした時点で終了します	
検査	P		・検査の時間は『午後　　時ごろ』です ・1階の血管造影室で行います ・検査室には看護師と一緒にベッドで移動します		・12誘導心電図の検査をします	・退院時に心電図モニターを外します
説明・指導・栄養・服薬	P	・検査用パンツを購入ください （1階の売店で購入してください） ・服薬指導、栄養指導があります ・糖尿病薬を内服している方は中止する場合があります ・特別な栄養管理の必要性 （有・無） ・入院、治療についての説明があります		・治療した部位からの出血や、 痛みが強くなった場合は直ぐにお知らせください	・動悸の確認、心拍が速くなっていないかなど 自己チェックのために自分で脈を測ることができるように説明します 練習して退院までに覚えましょう	
食事	P		・昼食は食べることができません ・開始時間が午前中の場合は朝食は食べることができません ・水分は午前中であれば、ご自由にお摂りください ・開始時間が午前中の場合、水分は8時まで可能です	・水分は帰室後にすぐに摂ることができます 治療に『造影剤』を使用しています 体から早く出す為に水分は多く取ってください ・夕食は帰室後、1時間後に摂ることができます ベッド上で横になったままで食事摂取となります	・朝食はギャッチアップ45°に起こして 食事を取ることができます ・安静解除されていれば、座ることはできます	
排泄	P		・治療後は翌朝まで床上安静になりますので おしっこの管をいれます	・排便時はナースコールにてお知らせください 床上用の便器を準備します 	・圧迫止血が解除されたら 尿道留置カテーテルを抜去します ・その後はトイレを使用することができます	
清潔	P	・治療前までは入浴できます （症状、状態によっては入浴できないこともあります）		・治療後は入浴できません	・経過がよければ シャワー浴のみ可能です ・それ以降は入浴可能です 	
対症指示	P	・胸部痛・胸部不快がある場合は ナースコールでお知らせください	・糖尿病がある方は12時に血糖測定を行います	・眠れないとき、痛みがあるとき、吐き気があるときは ナースコールでお知らせください		